

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字碁石山甲661番地1
自己評価作成日	平成28年 6月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 8月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクリエーションの時間では、利用者様の残存機能の低下予防の為に、ひとりひとりに合った機能訓練を考え実施している。また、楽しく過ごして頂けように取り組んでいる。日常生活でも、利用者様の残存機能を活かし出来る事をして頂くよう声掛けをしている。
衛生面では、毎日のホール内・居室・トイレ内の掃除を行い、手洗い・うがい、口腔ケアを徹底して行い、感染症の予防を防ぎ、気持ちよく過ごして頂くよう心掛けている。
排泄では、個々の気分にむらもあり、その時の状況に合わせ、時間を置いたり、声掛け方法を変える、2人対応を行う等、利用者様が安全に排泄出来る様支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年になる当事業所は高台にあり、リビングから海まで見える景色は絶景で季節の移ろいを感じながら穏やかに過ごすことができている。毎日のラジオ体操、歩行訓練を実践し利用者の身体機能の維持と向上に力を入れている。また毎月、趣味の会を開催しバック作り、レクレーション、おやつ作りを行い利用者、家族の交流の場となっている。管理者は現場を大切に考えており職員家族にも気遣い、相談しやすい職場環境に配慮している。職員は明るくコミュニケーションが取れており、利用者のできることを探して一緒に行うことを大切にし、利用者の笑顔が見られるように、また利用者からの「ありがとう」のこたばにやりがいを感じながら支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 1F たんぼぼ

記入者(管理者)
氏名 藤原 裕子

評価完了日 平成28年6月26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 福寿苑の理念を掲げ各階に掲示、周知し実践に向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 開設時に職員全員で話し合い作成された「一緒に歩む。」ほほえみを大切にします。」という事業所独自の理念は現在も大切に引き継がれている。職員会で見直しを行い理念にそった副題を作成し、今年度は「一緒に共に」を追加し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の文化祭へ利用者様がレクリエーション時に作成された作品の出展、地方債の見学、散歩時などの地域住民との交流を行っている。又、趣味の会を毎月開催してボランティアの方や利用者様のご家族様地域の方との交流の場を設けている。	
			(外部評価) 地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、夏祭りや敬老会に参加して地域住民との交流を図っている。11月には事業所主催の文化祭を検討中で地域住民の参加案内をする予定である。毎月趣味の会を開催し家族や家族の知人、地域住民が参加してボランティアによるバック作り、手作りアイスクリーム、レクリエーションを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の民生委員の方に運営推進会に出席して頂き、施設の現状、支援の方法、認知症の病気への理解を深め、認識して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 施設活動の取り組み内容については、写真などを用いて「見える現状の活動報告」を心がけそこから出席者の方達からの率直な意見を拾い上げ望まれるより良いサービス向上につなげるようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、民生委員、自治会長、家族、地域住民の参加を得て開催している。会議は趣味の会の後に行われ、参加した家族の利用者の状況報告が中心となっている。地域住民の代表者の参加が少なく、年間延べ9名にとどまり積極的な意見交換とまでには至っていない。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市担当者には運営推進会への出席をして頂き、施設の活動を詳細に報告しその内容を理解して頂くと共にお互いの情報交換をすることで協力関係を築く努力をしている。</p> <p>(外部評価) 市担当職員は運営推進会議に参加し事業所の状況を報告し情報交換を行っている。介護保険制度についての問い合わせを行うなど顔なじみになっており協力関係ができてい。地域包括支援センター職員とは利用者についての相談を行うなど連携を図っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 夜間は治安の為玄関の施錠を行っているが日中は開錠された状態である。身体拘束についても拘束0のケアを目指して勉強会等実施し取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 年に1回、身体拘束について勉強会を開催している。担当職員が資料を作成し、講師として説明し職員全員が理解を深めている。「ちょっと待って」などことばの拘束についても配慮している。各ユニットに気付きノートを置き、職員間で記録し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず自由に入出入りすることができ、外に出ようとする利用者には様子を見守りながら一緒に歩き気分転換を図っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の皮膚状態を常に把握し、不自然な内出血や打撲痕などの注意観察を職員全員で意識を持って行い、早期発見、報告、連絡に努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部研修、外部研修へ参加することによって、一般職員にも勉強会を通して認知症利用者様を社会的に保護し守る制度を知る機会を作っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をとり口頭だけでなく施設見学や契約説明を行っている。契約書はユニット入口に掲示し自由に観て頂く事も可能です。又、ご家族様に疑問点を伺い不明な点があれば詳細に納得されるまで説明させて頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置したり、運営推進会や面会時にご家族様の意見や希望がないかを伺い、又話しやすい環境づくりにも留意している。それによる貴重な利用者様や御家族様のご意見、ご要望は可能な限り職員間で話し合い実現できるものに関しては取り組んでいる。 (外部評価) 日常の会話の中で出たことばを大切に、何をしたいのかなど聞き逃さないようにしている。畑作業や日常動作の中から好きなことや得意な事を読み取るようにしている。家族へは趣味の会に参加を呼びかけ、話しやすい関係作りに努め意見や要望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会月2回、リーダー会月2回、職員会月1回行っている。1ユニットにリーダーを配置しておりリーダーは他職員が意見を言いやすい、話しやすい方を選んでいて職員全員の意見を反映できる環境が整っている。 (外部評価) 各ユニットにリーダーを配置し、職員が意見や相談をしやすくしている。ユニット会を定期的に開催し利用者の生活状況や身体状況を話し合い、また係を決め職員は何か所に所属し状況報告を行っている。月1回の職員会には経営者も参加して積極的に意見交換している。外部研修にも経験を踏まえて参加を促し、資格取得にも法人からの援助があり向上心を持ってスキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得に向けての援助や環境作りは行っている。又職員がお互いに向上心を持ってスキルアップが図れるように施設側も援助してくれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に一度の勉強会を行っている。勉強会の内容によって目標を立て、振り返り、反省を行い、個々の意識を高める事が出来ている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内のグループホームの交流会に2か月に1度参加している。勉強会にも積極的に参加している。交流会や勉強会にて他施設との情報交換が出来ている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 始めの自己紹介を必ず行い、ご本人様へのお名前などを視線を合わせてコミュニケーションを図る事を心がけている。施設内での生活リズムをその都度話したり、ご本人様の習慣、要望も遠慮なく聞いて頂ける様に柔らかい姿勢で接するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様が疑問に思っている事が気軽に聞いて頂ける様に柔和な態度に努めています。自分で直ぐに返答できない内容は必ず上司への確認を行い、真摯的対応ができる様意識して業務にあたっています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様やご本人様の訴えに対し、傾聴、共感的理解の姿勢がとれるように心がけている。すぐに返答できない内容時には確認してお答えする様に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様と一緒に出来る事をしながら楽しく苑生活が送れる。毎日楽しく過ごせて頂く様に努めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様に病院受診等の時には状態をよく観察した上で今の状態を分かりやすく的確にお伝えする様に気をつけている。また、外出、行事への参加も家族様に協力を得ながら、利用者様との良好な関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様からどのような生活をされ、昔の仕事、趣味などを把握しお話をもつ事で昔を思い出し、新たに把握したことはケース記録に残し職員皆で共有する様に努めている。 (外部評価) 近くに住んでいた顔なじみの方との面会は、居室でゆっくり話ができるよう配慮している。近くの神社にお参りしたり、ドライブに出かけて馴染みの場所へ立ち寄り懐かしいひと時を過ごしている。家族の協力で馴染みの美容室へ行き、お盆には自宅に帰り一泊するなど馴染みの人や場所との関係を大切に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションを中心に利用者様同士で会話をしあえる環境作りを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院時には面会や家族様と電話連絡をとり関係の継続に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人様より希望を聞き取りまた日々の生活の中で本人様の気持ちを汲み取り、出来るだけ本人様らしい生活に近づく事が出来るように努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者職員がゆっくり過ごす時間を大切に話を聞いたり、4～5人で会話がはずみ出たことばを聞き取り、また家族から昔の話を聞くなどして利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。自分から伝えることが困難な利用者は、日頃の様子や表情などからくみ取り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、本人様や家族様より生活歴などを聞き、本人様より希望を聞き取り職員間で情報の共有を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様の日々の過ごし方、本人様の興味のあることを理解するようにコミュニケーションをとり、その人の状態を理解出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、担当利用者様のアセスメントを実施し、担当者会議にて課題を出し合い、その人に必要なケアを職員間で話し合い、介護計画を作成するように努めている。	
			(外部評価) 介護計画は利用者一人ひとりの思いや意向に沿って作成している。初回は入居後1か月で見直しを行い、その後は3か月毎に、また状態に変化がある時はその都度見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。担当職員は毎月、アセスメント表を見直し、日々のサービス実施状況を確認し、ユニット会で意見交換しモニタリングを行い計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日、ケース記録に利用者様の様子を分かりやすく記録し、申し送り時にも伝え職員間で情報の共有を行い見直し出来るように努めています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様や家族様とのコミュニケーションや家族様への報告をその時の状況に対して必要なケアを行えるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 利用者様の残存機能を見つけ継続する事が出来るように時間をもち対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族対応でかかりつけ医に受診して頂いており、必要な情 報は、口頭や文面、書類を渡し対応している。時にはかかり つけ医に電話で情報を提供し適切な医療が受けれるよう に努めている。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続し家族が同行して受診し ている。また協力医は月に1～2回の往診があり、病状に 応じて診てもらえることができる。看護師は日々の様子やバ イタルなど必要に応じて情報提供し、医師より診断内容や 注意点、内服の変更など連携を図り適切な医療を受けるこ とができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者様の日々の変化や気づきは直ぐに看護師に報告し、 指示を頂いている。夜勤帯は電話連絡にて指示を頂き状況 に応じて駆けつけて頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際は、文面書類にて情報を伝え、また分からない 事があれば電話で情報を伝えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した利用者はグループホームで出来る範囲の説明を させて頂き、本人様家族様にとってより良い方法を話し合 い医療機関との連携をはかっている。	
			(外部評価) ターミナルケアは行っていない。入居時に「重度化及び看 取りに関する指針」に沿って説明を行い、食事を口から食 べることができる状態を基本とし、事業所でできること、 できないことを説明して理解を得ている。重度化の段階に 応じて利用者や家族の要望に合わせて関係者と話し合い医 療連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当、初期対応、看護師による指導、応急対応マニュアルの整備に努め、全職員が自覚を持って公務に取り組むよう意識づけしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練、勉強会実施の、緊急連絡網作成の等、マニュアルの随時見直しも行って、歩行困難な利用者様の搬送方法等も含めて学んでいる。また、風水害時の訓練も行っている。	
			(外部評価) 年2回、昼と夜間を想定して地震、火災時の避難訓練を実施している。防災担当職員は様々な場面を想定して訓練を行うとともに、緊急連絡網を整備しシュミレーションを実施している。また各階に水や缶詰など備蓄品を準備し緊急時に備えている。地区の防災に関する勉強会に参加するなど地域との協力体制も築けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様に対しては「～さん」と声かけを行い、人生の先輩として尊厳を重視し、呼びかけを行っています。職員間でも、お互いが注意できる環境づくりをしている。	
			(外部評価) 入浴時はことばかけに気を付けカーテンを閉めて大きめのタオルをかけるなど、羞恥心に配慮した対応に努めている。排泄時は小さな声で声かけし戸を閉めるなど気をつけている。居室に入る時には声をかけ、プライバシーに配慮した対応に努めている。	居室入り口は上部半面が透明ガラスで利用者の様子をいつでも誰でも確認することができ、安全面を優先し違和感なく過ぎている。入浴や排せつなどプライバシーに配慮した対応に努めているが、再度自分に置き換え職員全員で利用者一人ひとりの尊重とプライバシーについて話し合うなどしており、今後の取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の性格を理解し1対1で向き合い、話しする時間を取ることで不穏軽減に繋がっている。又ユニットで話し合いを持ち共有し、訴えやすい環境作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々利用者様とのコミュニケーションを取ることでその人らしい希望に沿った支援を行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 四季に合わせた衣類を家族様へ協力して頂きその都度収納しておく。衣類の位置は肌着、靴下等わかりやすく表示している。入浴時や更衣時には利用者様に選んで頂く。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々に合わせた食器類で出来るだけ利用者様自身で食事が摂れるように工夫している。見た目も考え、盛り付けにも気を付けている。下膳に関しては、出来る方には率先して行って頂いている。	
			(外部評価) 献立は法人の栄養士が立て、調理されたレトルトが週2回事業所に届き、刻み食やミキサー食など食事形態に合わせて対応している。毎月、担当職員は給食会議に参加して利用者の好みや行事食、おやつなど要望を出して取り入れている。また事業所の畑で採れた季節の野菜を添えたり、利用者には一緒に大根すりや台拭きなどできることをしてもらい、楽しく食事をする事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 誤嚥や嚥下状態を把握し義歯の状態等で咀嚼が難しい方には副食を刻み提供している。水分補給は時間事以外いつでも飲水して頂けるようにホールにお茶を設置している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝・昼・夕必ず義歯を外して頂き口腔内の清潔保持に努めている。常に見守りを重視し口腔内の確認を行うと共にその人に合わせた口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を利用し、1人1人の排泄パターンの把握やトイレに座る時間を調整しながら、トイレ誘導、排泄介助を行っている。トイレで立てる方は声掛けにて立って頂けるように努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声かけを行いトイレでの排泄を支援している。生活リハビリの一環としてトイレでの立ち座りを行ってもらい、立位困難な利用者は二人介助で支援している。声かけによるトイレへの誘導や便座に座ることでトイレで排泄できるようになるなど、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 午前、午後に水分補給を行っています。水分補給ではミネラルウォーター・お茶・コーヒー等個別に対応行っています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人時間を掛け入浴させて頂いている。一人に対応出来ない際は二人対応にて行っている。 利用者様に合わせ普通浴・特浴・シャワー浴や足浴も実施している。	
			(外部評価) 浴室は個浴で四方面から介助と見守りができるように配置されており、シャワー浴、特浴を設置し利用者の身体状況に応じて安全に入浴できるよう支援している。週2回の入浴が基本で、利用者一人ひとりに職員が付き添うなどゆっくり安心して湯船に入れるよう支援している。入浴の苦手な利用者は職員が交替で声かけしたり、翌日に声をかけるなどして無理強いすることなく入浴支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) シーツ交換、布団干し等定期的に実施している。 布団干し、ベッドは定期的な消毒をし、いつでも清潔に使用出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各階専用のケースを使い、朝、昼、夕、眠前に分けて用意している。初めて聞く薬や副作用の分からない薬もあるが日々勉強し利用者様の状態の変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 皆様とのレクリエーションなどに一緒に参加する事が難しい場合でも、お話しを伺いながら日々の楽しみや出来る事を寄り添い見つける事が出来るよう努めています。能力の低下防止、生活レベルの向上につながるよう日々の中に関わり、観察して他職員と連携を取り発見、実施するように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人様からの訴え、職員からの関わりにより、希望を伺えるように日々配慮に努めている。天気の良い日には皆様と外気浴を行い親睦を深めて頂けるように努めている。家族様へ面会時に本人様からの希望をお伝えするようにしている。 (外部評価) 近くの池に亀や鯉などを見に行ったり、季節に合わせ事業所の周りでつくしを採ったり、栗拾いをするなどしている。また、近くの公園や海岸、遠方のバラ園などの見物や、春には桜のお花見などドライブに出かけるなど利用者が外出を楽しめるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様に金銭管理を行って頂いている。ご本人様より訴えがあったり、必要があれば家族様に用意して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人様より訴えがある際は、家族様へ状況をお伝えしてから、利用者様とお話しするなど、出来る限り対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎月壁画作りを行い、利用者様の居室ネームプレートを季節感のある装飾に入れ替えている。利用者様に喜んで頂けるように明るい色、職員は派手な色の服を着用しないようしている。	
			(外部評価) 利用者と一緒に壁画を作成し、毎月貼り替え楽しんでいる。ホールはリビング、ダイニングを設けている。リビングはテレビと大きなソファを置きゆっくりくつろぐことができる。ダイニングは丸テーブルを置き自由に席を設けることができ、窓からは海の景色が見え和やかな雰囲気がある。利用者の動線に気を付け物を置かないよう配慮し、職員は小まめに清掃し清潔な環境で過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合った利用者同士で編み物等をされたり、針仕事をされたりと穏やかに過ごされています窓の外を眺められしなみ海道を眺められて過ごされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活の中でご自分で作られたぬり絵、折り紙、ちぎり絵を居室に自分でみれるようにおいている。御自分の好きなぬいぐるみや誕生日プレゼントは大切に置かれている。	
			(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが常備されている。畳部屋が一室あり利用者の生活歴や要望にそって利用できる。大きめのクローゼットに衣類など収納できており部屋を広く使うことができている。利用者の使い慣れた寝具、写真、時計、スケッチブック、ぬいぐるみやぬり絵を飾り利用者一人ひとりが穏やかに過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッドの位置、向き、高さ等はその利用者様に合わせて提供している。歩行不安定な方でも手すり、ソファを使用し安全で自立した生活が送れるように工夫している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字基石山甲661-1
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 8 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人が出来る事を維持出来る様に関わりを持って援助していく。午前中は、身体を動かすレクリエーションを中心に行い、午後からは個別に対応する時間を作りながら利用者同士のコミュニケーションを大事にした時間を過ごす。また季節に事に外出して自然の物を採取してきて共同調理を行って季節に応じた食事を楽しんだりしている。ホール内の内装も展示物を毎月替えており、職員と利用者様が一体となって作品づくりを行っていて貼り絵や折紙など積極的に作品作りに参加してもらっています。日常的な洗濯から掃除に関しても利用者様から積極的な参加が見られていて、出来るだけ職員と一緒に出来る事を作っていきように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年になる当事業所は高台にあり、リビングから海まで見える景色は絶景で季節の移ろいを感じながら穏やかに過ごすことができている。毎日のラジオ体操、歩行訓練を実践し利用者の身体機能の維持と向上に力を入れている。また毎月、趣味の会を開催しバック作り、レクリエーション、おやつ作りを行い利用者、家族の交流の場となっている。管理者は現場を大切に考えており職員家族にも気遣い、相談しやすい職場環境に配慮している。職員は明るくコミュニケーションが取れており、利用者のできることを探して一緒に行うことを大切に、利用者の笑顔が見られるように、また利用者からの「ありがとう」のこぼれにやりがいを感じながら支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 2F コスモス

記入者(管理者)

氏名 藤原 裕子

評価完了日

平成28年6月26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「一緒に歩む、ほほえみ大切にします」 寄り添い・傾聴を行い、その人らしい生活をおくりやりがいのある生き方の支援をする。ユニット会を通して職員間で情報の共有化を図り個々のニーズに応じていく。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員全員で話し合い作成された「一緒に歩む。」ほほえみ」を大切にします。」という事業所独自の理念は現在も大切に引き継がれている。職員会で見直しを行い理念にそった副題を作成し、今年度は「一緒に共に」を追加し実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の交流会を趣味の会として毎月実施しており、ボランティアによるコーラス会も毎月行っている。地域の防災会議にも参加して利用者の理解を深めている。</p> <p>(外部評価) 地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、夏祭りや敬老会に参加して地域住民との交流を図っている。11月には事業所主催の文化祭を検討中で地域住民の参加案内をする予定である。毎月趣味の会を開催し家族や家族の知人、地域住民が参加してボランティアによるバック作り、手作りアイスクリーム、レクリエーションを楽しんでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 災害時における避難所として開設しており、地域の介護者への対応力への説明も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様の記録や行事の説明を写真を通して説明と閲覧する機会を作り、家族様からの意見や案を頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、民生委員、自治会長、家族、地域住民の参加を得て開催している。会議は趣味の会の後に行われ、参加した家族の利用者の状況報告が中心となっている。地域住民の代表者の参加が少なく、年間延べ9名にとどまり積極的な意見交換とまでには至っていない。	運営推進会議の参加者を増やすため家族に知人等への参加の呼びかけにより力を入れるようお願いすると共に、運営推進会議の役割について話し合い、サービス向上に生かしていける議題を検討するなど、会議の効率的な運営ができるようさらなる取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を2ヶ月に1度実施しており、参加して頂く様にして意見交換の場を作っている。 又、事故報告も、その都度行っている。	
			(外部評価) 市担当職員は運営推進会議に参加し事業所の状況を報告し情報交換を行っている。介護保険制度についての問い合わせを行うなど顔なじみになっており協力関係ができていく。地域包括支援センター職員とは利用者についての相談を行うなど連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的な勉強会でケアについて学ぶ時間を作りながら、ユニット会等でも話し合いを行い、また気づきノートを使用して職員同士で啓発していく体制作りも行っている。	
			(外部評価) 年に1回、身体拘束について勉強会を開催している。担当職員が資料を作成し、講師として説明し職員全員が理解を深めている。「ちょっと待って」などことばの拘束についても配慮している。各ユニットに気づきノートを置き、職員間で記録し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず自由に入出入りすることができ、外に出ようとする利用者には様子を見守りながら一緒に歩き気分転換を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会で虐待についての定義や、どのようにして対応していくかを学びながら、ヒアリハット報告書や気づきノートを通してお互いを注意できる環境作りをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 資格取得等の機会で個々が各自で勉強する機会をもっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 個別の対応で時間を頂きながら、内容の説明を一つ一つ行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の面談での機会でも時間を作って意見を伺う時間を作ったり、意見箱の設置をしている。	
			(外部評価) 日常の会話の中で出たことばを大切にして、何をしたいのかなど聞き逃さないようにしている。畑作業や日常動作の中から好きなことや得意な事を読み取るようにしている。家族へは趣味の会に参加を呼びかけ、話しやすい関係作りに努め意見や要望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃より話の聞き取りの機会を作り、コミュニケーションが取り易い環境を作っており、また現場でも同じように作業工程に取り組んでいる。 ユニット会等の月2回の実施でも意見を求めている。	
			(外部評価) 各ユニットにリーダーを配置し、職員が意見や相談をしやすくしている。ユニット会を定期的開催し利用者の生活状況や身体状況を話し合い、また係を決め職員は何か所に所属し状況報告を行っている。月1回の職員会には経営者も参加して積極的に意見交換している。外部研修にも経験を踏まえて参加を促し、資格取得にも法人からの援助があり向上心を持ってスキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 日常より勤務時間の把握を行っており、サービス残業はない様に徹底している。 評価表等を用いて、目的ももって取組める様にしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修やOJTの実施、月1回の勉強会を通して個々のスキルアップに取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホームの会合や、外部研修を通してコミュニケーションを図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ケアプラン作成担当者を筆頭にコミュニケーションを中心に、本人の安心・居場所作りを職員が統一ユニットケアを行っていくことで安心感を持っていただけるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様の不安や要望等を詳しくきき、相談に乗り任せて頂ける様信頼関係作りに努めている。 初期面接だけではなく、その後も気軽に話して頂くよう雰囲気作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様の状況や家族様とのコミュニケーションをしっかりと図り、アセスメントを中心とした情報収集に努めて、そこからその時に必要としている支援が出来るよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お互いの関係作りにおいても同等の立場を作り、支え合う関係を構築できるように、出来ることは自身でしていただく、互いに相談や作業が習える環境を作っていく。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様の希望に添えるような関係作りを日頃の運営推進委員会や行事の参加、面会などから作っていき一緒に構築して歩んでいけるように時間作りをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人の面会等には遠慮なくゆっくりと話が出来る環境作りを行っており、家族様と同様に面会等出来るよう様に努めている。又、家族様と一緒になじみの場所への外出も楽しまれている。日常から家族様から情報のやり取りを行って、密な関係作りを目指しておこなってもいる。 (外部評価) 近くに住んでいた顔なじみの方との面会は、居室でゆっくり話ができるよう配慮している。近くの神社にお参りしたり、ドライブに出かけて馴染みの場所へ立ち寄り懐かしいひと時を過ごしている。家族の協力で馴染みの美容室へ行き、お盆には自宅に帰り一泊するなど馴染みの人や場所との関係を大切に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日頃から利用者様同士の関係を把握して職員同士で情報の共有を図って、互いが良い関係作りを行っていきけるように職員も必要に応じて関与していく。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居される方にも途切れない様相談支援が引き続き行える事を説明している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で利用者様から思いや意向を聞いて把握している。困難な時には、生活歴やアセスメントを通して主体が本人になれるように担当者会議などで検討している。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者や職員がゆっくり過ごす時間を大切に話を聞いたり、4～5人で会話がはずみ出たことばを聞き取り、また家族から昔の話を聞くなどして利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。自分から伝えることが困難な利用者は、日頃の様子や表情などからくみ取り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントの毎月定期的な見直しを行っていて、情報の集約を行っている。また担当職員を置くことによって個別に把握に努められるように努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタル測定を行い、体の異常の早期発見に努めている。また行動ケアチェック表を用いてケアプランの状態把握に努めて一日の過ごし方を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様・家族様の要望を聞き取りながら、担当者会議を行ってチームで評価しアセスメントでケアの見直しを行い、目的や要望に沿った介護計画を作成している。各計画作成担当者の月二回の会議も実施している。	
			(外部評価) 介護計画は利用者一人ひとりの思いや意向に沿って作成している。初回は入居後1か月で見直しを行い、その後は3か月毎に、また状態に変化がある時はその都度見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。担当職員は毎月、アセスメント表を見直し、日々のサービス実施状況を確認し、ユニット会で意見交換しモニタリングを行い計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人様が言った言葉や行動等をケース記録や申し送り帳や日誌など使用して個別に記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しを実践している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 職員の技術の向上や対応能力の強化を図りながら個々のニーズに対応できるように努めるとともに、外部研修や情報収集を行って多機能化に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域ボランティアのコーラス会・小物作り等を行い、家族様と入居者と共に楽しむ事が出来る活動機会を作ったり、地域のお祭りへの参加などを通して利用者様の生活環境に準じた豊かな生活が送れる支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所前よりかかりつけ医がある場合は、継続して頂いている。状況によっては情報提供書の作成なども行っている。</p> <p>(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続し家族が同行して受診している。また協力医は月に1～2回の往診があり、病状に応じて診てもらえることができる。看護師は日々の様子やバイタルなど必要に応じて情報提供し、医師より診断内容や注意点、内服の変更など連携を図り適切な医療を受けることができている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日々の観察やバイタル測定を行い、異常の早期発見に心がけ看護師へ報告・連絡・相談をし、適切な介護や受診を受けられるようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、情報提供等を行い医療機関に持参し入院計画や治療計画を家族様に連絡して頂いている。退院予定日には受け入れ出来ように詳細を伺い、退院後の受診には苑での様子・経過を連絡している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所契約時に、事務所で出来る事の説明を行い、同意を得ている。</p> <p>(外部評価) ターミナルケアは行っていない。入居時に「重度化及び看取りに関する指針」に沿って説明を行い、食事を口から食することができる状態を基本とし、事業所でできること、できないことを説明して理解を得ている。重度化の段階に応じて利用者や家族の要望に合わせて関係者と話し合い医療連携を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時の対応についてはマニュアル化しており、それにより対応している。また勉強会の実施も行っている。 又、急変・事故発生時は、看護師・管理者へ連絡を取るようになっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練を行っており、緊急連絡網を作成している。また年に一度の防災についての勉強会も実施している。地域の防災会議へ参加した際には報告を行って状況の把握を行っている。災害マニュアルを作成し、避難場所の掲示しどこに避難をすればいいか確認している。 (外部評価) 年2回、昼と夜間を想定して地震、火災時の避難訓練を実施している。防災担当職員は様々な場面を想定して訓練を行うとともに、緊急連絡網を整備しシュミレーションを実施している。また各階に水や缶詰など備蓄品を準備し緊急時に備えている。地区の防災に関する勉強会に参加するなど地域との協力体制も築けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室へ入る時は、利用者様に声掛けをしてから入室する。更衣時は必ずドアを閉めてから行き、プライバシーを損ねないようにしている。言葉使いに気を付けながら声掛けをしている。 (外部評価) 入浴時はことばかけに気を付けカーテンを閉めて大きめのタオルをかけるなど、羞恥心に配慮した対応に努めている。排泄時は小さな声で声かけし戸を閉めるなど気をつけている。居室に入る時には声をかけ、プライバシーに配慮した対応に努めている。	居室入り口は上部半面が透明ガラスで利用者の様子をいつでも誰でも確認することができ、安全面を優先し違和感なく過ぎている。入浴や排せつなどプライバシーに配慮した対応に努めているが、再度自分に置き換え職員全員で利用者一人ひとりの尊重とプライバシーについて話し合うなどしており、今後の取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様からの希望があればそれに応えられるように努めている。外出の希望等あれば、散歩や戸外食等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人様で行動が出来る様工夫をした声掛けを行いながら、その人にあったペースを大切にしゆっくりと過ごして頂く環境作りをしている。 職員の業務の中で何か重なった場合にも可能な限り希望にそえるよう支援を考えていく。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類は本人様に選んで頂ける様にしている。 整容時にも本人様の意向を取り入れながら行える様にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 戸外食等を計画し、職員と一緒に会話をしながら食事を行うことで楽しみにも繋がるようにしている。また日頃から季節に合わせた食材の採取にも積極的に出かけており、調理の下ごしらえから一緒に参加して頂いている。また料理の下ごしらえだけでなく、台拭きなどの事前の準備も職員と一緒にしていただいている (外部評価) 献立は法人の栄養士が立て、調理されたレトルトが週2回事業所に届き、刻み食やミキサー食など食事形態に合わせて対応している。毎月、担当職員は給食会議に参加して利用者の好みや行事食、おやつなど要望を出して取り入れている。また事業所の畑で採れた季節の野菜を添えたり、利用者には一緒に大根すりや台拭きなどできることをしてもらい、楽しく食事をする事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量の少ない方には、日誌等に記入し把握に努めている。本人様の好みもあり、水分の摂取に消極的な利用者様には家族様の協力を得て、本人が飲みやすいものや好みに合ったものを準備して提供するなどしている。また調理もキザミ食などの提供も行っていて利用者様に応じた形態でおこなっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い義歯の方にはポリデント等を使用し洗浄保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全員がトイレでの排泄が出来ている。本人様の排泄のパターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄出来る様に支援している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声かけを行いトイレでの排泄を支援している。生活リハビリの一環としてトイレでの立ち座りを行ってもらい、立位困難な利用者は二人介助で支援している。声かけによるトイレへの誘導や便座に座ることでトイレで排泄できるようになるなど、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日ラジオ体操等を行いながら運動不足にならない様体を動かして頂き、食事や水分のバランスを考えながら摂取して頂き改善できる様に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は週2回行き、入浴時には事故防止の為職員が付き添いを行う等している。 又、入浴を拒否される方には職員を交代や時間をおく等タイミングを工夫している。	
			(外部評価) 浴室は個室で四方面から介助と見守りができるように配置されており、シャワー浴、特浴を設置し利用者の身体状況に応じて安全に入浴できるよう支援している。週2回入浴が基本で、利用者一人ひとりに職員が付き添うなどゆっくり安心して湯船に入れるよう支援している。入浴の苦手な利用者は職員が交替で声かけしたり、翌日に声をかけるなどして無理強いすることなく入浴支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間帯や日中でも休息をされたい方には本人様が自由に居室にて房られ休まれ出来る様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬管理は看護師によって行っている。薬の目的や副作用・用量の理解は職員全員で努めている。服薬時に見守りや介助を行っている。また服薬ボードの使用や職員の配薬時の復唱を行い誤薬の防止を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションやクリスマス会等様々な行事を行い、気分転換出来る様にしている。 又、日々の生活の中でも張り合いや喜びを持つよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の希望にそって、苑外散歩を実施している。 家族様の協力等で、普段は行けない場所にも行っている。	
			(外部評価) 近くの池に亀や鯉などを見に行ったり、季節に合わせ事業所の周りでつくしを採ったり、栗拾いをするなどしている。また、近くの公園や海岸、遠方のバラ園などの見物や、春には桜のお花見などドライブに出かけるなど利用者が外出を楽しめるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様と一緒に外出する時や、行事にて外出した時等買い物出来る様に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族様からの電話や手紙は、利用者様に届けるようにしている。 又、本人様が電話を掛けたい時には相手様の確認など職員が支援して行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は、毎日掃除をし清潔にしている。 壁画・食事には季節感を取り入れている。 空調を細かく使い分け、利用者様が快適に過ごせる様にしている。	
			(外部評価) 利用者と一緒に壁画を作成し、毎月貼り替え楽しんでいる。ホールはリビング、ダイニングを設けている。リビングはテレビと大きなソファを置きゆっくりくつろぐことができる。ダイニングは丸テーブルを置き自由に席を設けることができ、窓からは海の景色が見え和やかな雰囲気がある。利用者の動線に気を付け物を置かないよう配慮し、職員は小まめに清掃し清潔な環境で過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやテーブルに利用者様が集まれる様にしている。 テーブルの配置も職員が状況を見ながら設置場所を考慮して行っている。 椅子は自由に動かせ、好きな場所にて過ごせる様に配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人様の好みの物を置き、本人様が居心地よく過ごせる様にしている。	
			(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが常備されている。畳部屋が一室あり利用者の生活歴や要望にそって利用できる。大きめのクローゼットに衣類など収納できおり部屋を広く使うことができている。利用者の使い慣れた寝具、写真、時計、スケッチブック、ぬいぐるみやぬり絵を飾り利用者一人ひとりが穏やかに過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレやフロアーには手すりを配置。ご自分の居室が分かるようにプレートや目印を付けている。自分で出来る居室の片付け・掃除等は職員と一緒にこなしている。「出来る事」「分かる事」は自身で行い、出来る範囲で自立した生活出来る様に配慮している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字基石山甲661番地1
自己評価作成日	平成 28 年 6 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 8 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクリエーションでは、健康維持のため歩行訓練を毎日行っている。また、利用者様に合わせて裁縫や塗り絵を行っている。毎月、塗り絵大会を行い、日々のレクリエーションで作成した塗り絵を発表し、充実感が持てるように努めている。また、地域の環境を活かし、天候が良い日は散歩を行っている。おやつも手作りを取り入れている。職員の年齢の幅もあり、利用者との会話では教えて頂く事から同じ世代の話など楽しく懐かしい話が出る環境である。体調管理や健康管理では、手洗い、うがいの徹底。毎日のバイタル測定を行い、予防・早期発見に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年になる当事業所は高台にあり、リビングから海まで見える景色は絶景で季節の移ろいを感じながら穏やかに過ごすことができている。毎日のラジオ体操、歩行訓練を実践し利用者の身体機能の維持と向上に力を入れている。また毎月、趣味の会を開催しバック作り、レクレーション、おやつ作りを行い利用者、家族の交流の場となっている。管理者は現場を大切に考えており職員家族にも気遣い、相談しやすい職場環境に配慮している。職員は明るくコミュニケーションが取れており、利用者のできることを探して一緒に行うことを大切に、利用者の笑顔が見られるように、また利用者からの「ありがとう」のこぼれにやりがいを感じながら支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 亀天福寿苑

(ユニット名) 3 F ひまわり

記入者(管理者)

氏名 藤原 裕子

評価完了日

平成28年6月26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の理念、福寿苑の理念を掲示、職員一人一人が常に意識して把握し、ケアの実践につなげていくよう努力している。	
			(外部評価) 開設時に職員全員で話し合い作成された「一緒に歩む。」ほほえみを大切にします。」という事業所独自の理念は現在も大切に引き継がれている。職員会で見直しを行い理念にそった副題を作成し、今年度は「一緒に共に」を追加し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夏祭りの招待、趣味の会の開催、ボランティアの活用で地域との触れ合いに取り組んでいる。地域が開催している防災会議への出席している。地域の方より1次避難場所としての提案が出ている。	
			(外部評価) 地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、夏祭りや敬老会に参加して地域住民との交流を図っている。11月には事業所主催の文化祭を検討中で地域住民の参加案内をする予定である。毎月趣味の会を開催し家族や家族の知人、地域住民が参加してボランティアによるバック作り、手作りアイスクリーム、レクリエーションを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会で自治会長、民生委員の出席をいただき、施設の現状や認知症の理解をしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、評価への取り組みや結果の報告を行い、意見交換をすることによってサービス向上に取り組む努力を行っている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、民生委員、自治会長、家族、地域住民の参加を得て開催している。会議は趣味の会の後に行われ、参加した家族の利用者の状況報告が中心となっている。地域住民の代表者の参加が少なく、年間延べ9名にとどまり積極的な意見交換とまでには至っていない。	運営推進会議の参加者を増やすため家族に知人等への参加の呼びかけにより力を入れるようお願いすると共に、運営推進会議の役割について話し合い、サービス向上に生かしていける議題を検討するなど、会議の効率的な運営ができるようさらなる取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者に運営推進会議に出席して頂き、情報提供などのアドバイスを受け協力関係を築く努力を行っている。	
			(外部評価) 市担当職員は運営推進会議に参加し事業所の状況を報告し情報交換を行っている。介護保険制度についての問い合わせを行うなど顔なじみになっており協力関係ができていいる。地域包括支援センター職員とは利用者についての相談を行うなど連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束は、しないということを常に念頭において、研修に参加、または勉強会も実施し周知徹底を図っている。ベッド柵は、2本までとし、超低床ベッドを使用している。	
			(外部評価) 年に1回、身体拘束について勉強会を開催している。担当職員が資料を作成し、講師として説明し職員全員が理解を深めている。「ちょっと待って」などことばの拘束についても配慮している。各ユニットに気付きノートを置き、職員間で記録し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず自由に出入りすることができ、外に出ようとする利用者には様子を見守りながら一緒に歩き気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入浴や着替え時、皮膚の状態を観察し、小さな傷や内出血の早期発見に努めユニット会や朝礼等で話し合いの場を持ち対応を検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修への参加、ユニット会、勉強会で報告し、個々の必要性を学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な時間を取り説明している。家族様の疑問点にも理解して頂いているようにしている。ユニット入口に契約書を掲示している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置し要望苦情に速やかに取り組むようにしている。	
			(外部評価) 日常の会話の中で出たことばを大切に、何をしたいのかなど聞き逃さないようにしている。畑作業や日常動作の中から好きなことや得意な事を読み取るようにしている。家族へは趣味の会に参加を呼びかけ、話しやすい関係作りに努め意見や要望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会、月2回ユニット会、リーダー会を開催し率直な意見を求める機会を設け反映している。	
			(外部評価) 各ユニットにリーダーを配置し、職員が意見や相談をしやすくしている。ユニット会を定期的開催し利用者の生活状況や身体状況を話し合い、また係を決め職員は何か所に所属し状況報告を行っている。月1回の職員会には経営者も参加して積極的に意見交換している。外部研修にも経験を踏まえて参加を促し、資格取得にも法人からの援助があり向上心を持ってスキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) リーダー会、職員会に出席し、直接話ができる体制を作っている。評価表も利用し、各職員が毎月目標を立て、やりがいにつなげている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加し学んだ事を発表する事で、自他ともに勉強している（職員会時、テーマを決めて発表）	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 今治市グループホーム交流会に参加したり、ケアハウスGH特養施設など訪問し、意見交換や勉強会に参加しサービスの質を向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 傾聴を第1に利用者とのコミュニケーションを十分にとり寄り添って信頼関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 傾聴し、安心して話が出来る様な温かい雰囲気作りを心が けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 傾聴する姿勢でお互いの要望を話し合える様に努めてい る。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 洗濯物たたみ調理の下ごしらえ、野菜づくり等出来る事、 得意な事が発揮できるようにしてもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 受診、外出などで家族様の協力を得て、本人との良好な関 係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 家族の面会時など、家族に聞き取りをして支援できること を検討している。	
			(外部評価) 近くに住んでいた顔なじみの方との面会は、居室でゆっく り話ができるよう配慮している。近くの神社にお参りしたり、 ドライブに出かけて馴染みの場所へ立ち寄り懐かしい ひと時を過ごしている。家族の協力で馴染みの美容室へ行 き、お盆には自宅に帰り一泊するなど馴染みの人や場所と の関係を大切に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 言葉が通じにくかったり理解困難な場面ではトラブルになる事もあるが職員が仲介役となり仲間作りに取り組んでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 電話や訪問で様子を伺ったり、必要な情報を提供し、本人の経過をフォローする事に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションをしっかりと取り、会話から移行を汲み取るように努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者と職員がゆっくり過ごす時間を大切に話を聞いたり、4～5人で会話がはずみ出たことばを聞き取り、また家族から昔の話を聞くなどして利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。自分から伝えることが困難な利用者は、日頃の様子や表情などからくみ取り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員との会話や回想法、家族様の信頼を築き把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 過剰開度を避け、手は出しすぎず目は離さずで本人のやる気や機能維持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人家族の希望を聞きながら、チームで話し合い計画を立てている。	
			(外部評価) 介護計画は利用者一人ひとりの思いや意向に沿って作成している。初回は入居後1か月で見直しを行い、その後は3か月毎に、また状態に変化がある時はその都度見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。担当職員は毎月、アセスメント表を見直し、日々のサービス実施状況を確認し、ユニット会で意見交換しモニタリングを行い計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様の発言、職員の気づきを記録、介護計画に活かすように取り組んでいる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る範囲では、入所者の特徴に応じてレクなどを工夫している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) コーラス会や小物作りなどを地域のボランティアの協力で実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 各利用者それぞれのかかりつけ医を家族様対応で受診、希 望あれば嘱託医の紹介や適切な病院の紹介をしている。</p> <p>(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続し家族が同行して受診し ている。また協力医は月に1～2回の往診があり、病状に 応じて診てもらえることができる。看護師は日々の様子やバ イタルなど必要に応じて情報提供し、医師より診断内容や 注意点、内服の変更など連携を図り適切な医療を受けるこ とができている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日々のバイタルは暮らしの状況表に記入している。日中 の変化は看護師にすぐに連絡し夜間は電話で報告、指示を仰 ぐ体制が出来ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 情報提供書や電話連絡にて安心できるように相談に努めて いる。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時に看取りの指針について説明している。医療が必要 になった時点で家族様と十分に話し合い一番良い方法を選 択しアドバイスを行っている。</p> <p>(外部評価) ターミナルケアは行っていない。入居時に「重度化及び看 取りに関する指針」に沿って説明を行い、食事を口から食 べることができる状態を基本とし、事業所でできること、 できないことを説明して理解を得ている。重度化の段階に 応じて利用者や家族の要望に合わせて関係者と話し合い医 療連携を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成しており、確認しながら各自自覚し取り組むように意識づけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練時には役割を交替で実施し、終了後具体的に検証している。 (外部評価) 年2回、昼と夜間を想定して地震、火災時の避難訓練を実施している。防災担当職員は様々な場面を想定して訓練を行うとともに、緊急連絡網を整備しシュミレーションを実施している。また各階に水や缶詰など備蓄品を準備し緊急時に備えている。地区の防災に関する勉強会に参加するなど地域との協力体制も築けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊敬の念を持って、丁寧な言葉づかいで接するようにしている。入浴は一人入浴、トイレ介助の時はカーテンを閉める等職員が注意しながら取り組んでいる。 (外部評価) 入浴時はことばかけに気を付けカーテンを閉めて大きめのタオルをかけるなど、羞恥心に配慮した対応に努めている。排泄時は小さな声で声かけし戸を閉めるなど気をつけている。居室に入る時には声をかけ、プライバシーに配慮した対応に努めている。	居室入り口は上部半面が透明ガラスで利用者の様子をいつでも誰でも確認することができ、安全面を優先し違和感なく過ぎている。入浴や排せつなどプライバシーに配慮した対応に努めているが、再度自分に置き換え職員全員で利用者一人ひとりの尊重とプライバシーについて話し合うなどしており、今後の取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ゆっくりとした対応を心がけ、普段の会話の中から思いを汲み取ったり話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 中々理想通りにはいかないが、個々のペースに合わせてレクを取り入れたり、気候のいい時に苑周辺の散歩や野菜の収穫等を行い、希望に添えるよう努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) クローゼットの片づけを定期的に行い取り出しやすい様にしたたり、家族様の協力を得て季節毎の入れ替えを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ゆっくりと食事が出来る雰囲気作り、盛り付けの工夫などを行い見た目も美味しく楽しい食事が出来るよう配慮している。	
			(外部評価) 献立は法人の栄養士が立て、調理されたレトルトが週2回事業所に届き、刻み食やミキサー食など食事形態に合わせて対応している。毎月、担当職員は給食会議に参加して利用者の好みや行事食、おやつなど要望を出して取り入れている。また事業所の畑で採れた季節の野菜を添えたり、利用者には一緒に大根すりや台拭きなどできることをしてもらい、楽しく食事をする事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量チェックは毎回実施。残食については進めてみるも無理強いはない。利用者様の状態により刻み、軟飯の提供。お茶のお変わりも出来るよう急須を置いている。入浴後の水分補給も実施している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後洗面所にて歯磨きうがいの声掛け、見守り一部介助で行うのが習慣となっている。コップ歯ブラシ義歯入れ容器は週一回消毒している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を確認しながらトイレ誘導や声掛けを行い排泄の失敗を少なくするよう努力している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声かけを行いトイレでの排泄を支援している。生活リハビリの一環としてトイレでの立ち座りを行ってもらい、立位困難な利用者は二人介助で支援している。声かけによるトイレへの誘導や便座に座ることでトイレで排泄できるようになるなど、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の体操や水分補給の実施排泄表によりその人に応じた下剤の投与でコントロールしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) プライバシー保護からも一人ずつの入浴となっている。拒否される方への無理強いをせず、時間をおいての声掛けや別の職員が声を掛けてみる等臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 浴室は個室で四方面から介助と見守りができるように配置されており、シャワー浴、特浴を設置し利用者の身体状況に応じて安全に入浴できるよう支援している。週2回の入浴が基本で、利用者一人ひとりに職員が付き添うなどゆっくり安心して湯船に入れるよう支援している。入浴の苦手な利用者は職員が交替で声かけしたり、翌日に声をかけるなどして無理強いすることなく入浴支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも急速出来るようにしており無理強いをさせないように配慮している。職員からも声掛け本人の意思を確認し休んでいただく事もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ボードを使い服薬時は名前の再確認をし手渡しし飲み込んだかどうかの確認を行っている。処方箋を確認するなどして十分ではないが努力はしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 料理の下ごしらえや台拭き、洗濯物干し、洗濯物畳み、裁縫など昔されており、出来る事をして頂いている。レクリエーションも希望を取り入れ活性化に努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候を見ながら苑外、苑庭の散歩を実施している。ドライブを実施して外の様子を楽しんで頂いている。馴染のある理容室に家族と一緒に掛けられている。	
			(外部評価) 近くの池に亀や鯉などを見に行ったり、季節に合わせ事業所の周りでつくしを採ったり、栗拾いをするなどしている。また、近くの公園や海岸、遠方のバラ園などの見物や、春には桜のお花見などドライブに出かけるなど利用者が外出を楽しめるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金はご家族が管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から掛ける事はないが、家族や知人からかかってきた電話は取次椅子を用意、ゆっくりお話出来るよう配慮しているご家族にはその時現状を申し上げている。また、手紙が届いた際は、本人に渡している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホール居室入口に毎月季節に合った飾りつけを行う。ホール廊下には余計な物を置かず手すり椅子ソファは毎日のピオロジェン消毒で清潔を保っている。トイレ浴室はカーテン等でプライバシーの保護に努めている。	
			(外部評価) 利用者と一緒に壁画を作成し、毎月貼り替え楽しんでいる。ホールはリビング、ダイニングを設けている。リビングはテレビと大きなソファを置きゆっくりくつろぐことができる。ダイニングは丸テーブルを置き自由に席を設けることができ、窓からは海の景色が見え和やかな雰囲気がある。利用者の動線に気を付け物を置かないよう配慮し、職員は小まめに清掃し清潔な環境で過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 決まった席はなく自由に過ごして頂いている。居室の出入りも自由にしてもらい、テーブルやソファで仲間にくつろげるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物や思い出があるものを持ち込めるよう配慮している。利用者様の状態に合わせて居室を使用しやすいようベッドなどのレイアウトを変更している。	
			(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが常備されている。豊部屋が一室あり利用者の生活歴や要望にそって利用できる。大きめのクローゼットに衣類など収納できており部屋を広く使うことができている。利用者の使い慣れた寝具、写真、時計、スケッチブック、ぬいぐるみやぬり絵を飾り利用者一人ひとりが穏やかに過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下やホールには安全のために障害物の除去に努め整理整頓し、歩行不安定な利用者様が安心して動けるよう配慮している。	